

最低賃金の改定状況

都道府県	改定後の最低賃金 (引き上げ額)	適用日
北海道	1131円(56円)	10月1日
青森	1090円(61円)	10月29日
岩手	1090円(59円)	12月1日
宮城	1098円(60円)	10月1日
秋田	1090円(59円)	10月14日
山形	1092円(60円)	10月30日
福島	1094円(61円)	10月16日
茨城	1136円(62円)	10月18日
栃木	1125円(57円)	10月1日
群馬	1120円(57円)	10月3日
埼玉	1196円(55円)	10月1日
千葉	1195円(55円)	10月1日
東京	1280円(54円)	10月1日
神奈川	1279円(54円)	10月1日
新潟	1108円(58円)	10月1日
富山	1119円(57円)	10月1日
石川	1113円(59円)	10月3日
福井	1112円(59円)	10月4日
山梨	1113円(61円)	11月1日
長野	1117円(56円)	10月2日
岐阜	1121円(56円)	10月1日
静岡	1154円(57円)	10月15日
愛知	1195円(55円)	10月1日
三重	1143円(56円)	10月1日
滋賀	1136円(56円)	10月3日
京都	1180円(58円)	11月16日
大阪	1231円(54円)	10月1日
兵庫	1172円(56円)	10月1日
奈良	1107円(56円)	10月4日
和歌山	1101円(56円)	10月3日
鳥取	1090円(60円)	10月3日
島根	1092円(59円)	10月10日
岡山	1104円(57円)	10月2日
広島	1141円(56円)	10月11日
山口	1101円(58円)	10月8日
徳島	1103円(57円)	11月1日
香川	1092円(56円)	10月1日
愛媛	1093円(60円)	11月1日
高知	1086円(63円)	10月29日
福岡	1114円(57円)	10月4日
佐賀	1095円(65円)	11月15日
長崎	1087円(56円)	11月2日
熊本	1092円(58円)	12月1日
大分	1096円(61円)	11月1日
宮崎	1085円(62円)	10月24日
鹿児島	1090円(64円)	10月25日
沖縄	1086円(63円)	12月2日
全国 加重平均	1177円(56円)	

最低賃金

「上乗せ競争」は一服

都道府県 適用日早まる

47都道府県の今年度の最低賃金(時給)の改定額が、大きく上乗せする県が相次いだ。引き上げ幅の全国加重平均は56円と、目安の55円からの上積みは1円にとどまった。一方、昨年度は遅れが目立った改定額の適用時期は各地で早まった。

た。(社会部 西村勉、高知支局 田岡寛久、本文記事一面)

「最低賃金は労働者の職探しや定住の指標。単独最下位は避けたいが、大幅な引き上げによる企業側の負担増は無視できなかった。昨年度に目安から10円以上上乗せした東北地方の県の審議会委員は、今年度の議論をそう振り返る。

近年は物価高や人材流出

への懸念から最低賃金の地域間競争が過熱し、昨年度は18円上乗せした熊本など11県で目安から10円以上の引き上げを決めた。今年度の目安額からの上積みは佐賀県の9円が最高で、引き上げ幅は全都道府県で昨年度を下回った。

昨年度最下位だった高知県は、目安から7円上乗せして今年度は最下位を脱した。だが、高知労働局の担

当者は「最下位は避けたい」という議論にはならなかった」と明かす。

地域間競争が一服した背景には、物価上昇率の落ち着きがある。今年度に考慮した期間の消費者物価指数(持ち家の帰属家賃を除く総合)の平均は前年同期比2・1%増、うち食料品が同4・3%増となった。昨年度は同3・9%増、食料品は同6・4%増で、上昇

品は同6・4%増で、上昇

品は同6・4%増で、上昇